

平成 28 年度 KCN 京都 放送番組審議会 議事録

1. 開催日時

平成 28 年 5 月 30 日（月）11:00～12:30

2. 開催場所

京都府相楽郡精華町光台 1-7 けいはんなプラザ 5F 小会議室『ポトマック』

3. 出席者

会長 : 渡辺好章

副会長 : 山根林

委員 : 高木健次、大崎康弘、出栗美紀子、渡辺紀子（順不同・敬称略）

KCN 京都 : 佐野弘（代表取締役社長）、今里英之（常務取締役）、岡田裕樹（取締役総務部長）、
淀和憲（営業部長）、中島修（技術部係長）

4. 報告

■ 協議事項

① 自主放送番組について

KCN 京都自主制作番組 My けいはんな「山背古道ぶらりウォーク～前編～」(2016 年 2 月前半放送) の 1 作品について意見を伺った。

作品：「山背古道ぶらりウォーク～前編～」

- ・ 身近にこういったところがあると知り、興味を持った。近くにありながら意外と気づかないところにスポットを当てている。
- ・ 茶問屋ストリートがあるが、古道に面したお茶屋の映像が出ていれば理解しやすいのではないかと。また蟹満寺では言い伝えの説明があり理解できたが、どんなご利益があるのか等の説明もあればよかったのではないかと。
- ・ レポーターが持っていた山背古道のパンフレットは、どこに行けば手に入るのか紹介があった方がよい。視聴者が山背古道を歩いてみたいと思った時、そのパンフレットがあればより行動に移しやすいのではないかと。
- ・ 地域の歴史は地域メディアである KCN 京都が使命感を持って作品として残されている点において、住民にとってはありがたいメディアであると思う。地域の資産は歴史を踏まえないと希薄なものになり、歴史を繰り返し伝えることは地域作りには欠かせないと思う。地域メディアはその公的な役割を果たしていると感じる。

- ・ 蟹満寺においては簡単に触れられていたが、調べればもっと奥が深いものが出来ると思われる。ただ、そのためだけに時間を掛けるのは困難であるため、例えば、大学と協力しそれを脚本として活用すればより奥深い作品ができると思われる。
- ・ 大きな歴史は地域の小さな歴史の積み重ねであり、それを知ることが大切ではないか。またそれこそ住民の地域への愛着につながるのではないか。今回の視聴した番組は、一つの番組としてこれで完結されていると思うが、今後は更に内容を深めていくことも企画段階で考えていただきたい。
- ・ 茶問屋ストリートを町おこしで PR をしようという取り組みが市としてあるが触れられていない。また、蟹満寺は蟹の供養をするために多くの方が来られるがそういった紹介がない。もっとアピールすればよいのではないか。
- ・ 伝統文化を語る担い手が少なくなっており、プロの目からきれいな映像を残すのは大変意味がある。今回の番組では蟹満寺は国宝だがその紹介がなく残念。また、椿井大塚山古墳についても「三角縁神獣鏡」を紹介されておりこの古墳の特徴を紹介していたが、石碑だけの映像では古墳をイメージできない。引きのショットがあれば大きな古墳で卑弥呼の古墳かもしれないというイメージが出来るのではないか。山背古道に埋め込まれているプレートは、プレートに表記されている山の向きによって古道の道筋を示しているが、今回は逆方向に歩いてしまっている。

商店の方々の映像では、昔から住んでいる地域の方々が親しんでいるところや楽しそうに生活されているのが感じられた。

- ・ 今回前半を視聴したが、後半を見たいと思った。オンデマンドのようなもので過去の地域映像（番組）をいつでも見られるような仕組みがあれば、ケーブルテレビとしての存在価値が上がるのではないか。

■ 報告事項

① 平成 28 年度自主制作番組企画について

平成 28 年度の KCN 京都ファミリーチャンネルの番組企画について説明を行なった。

以上